

草芸特論 (2単位)

担当者氏名 高橋 新平

◆学習・教育目標 (到達目標を記載)

草本植物個体の生理生態を基礎として利用に至る技術や理論, 及び植物(草本)文化を学ぶ。具体的には、草本個体の生活, 植物生産と季節変化, 環境要因と成長解析、成長解析と計算事例, 草本個体と環境ストレス(物理的刺激と体内生理反応, 浸透圧ストレスと体内反応, 環境要因ストレス(光・水分・温度)と生育, など), 環境修復や緑化植栽における草本植物個体の取扱い等について学習する。

◆取り扱う領域 (キーワードで記載)

草本(個体)植物 生理生態 植物(草本)文化 環境ストレス
 成長解析 草本個体の環境適応性 環境修復

◆授業の進行等について

	テーマ	内容	準備学習(予習復習)等の内容と分量
1	草地の発達と歴史	欧州と日本における草地の発達	<ul style="list-style-type: none"> ・ 講義内容に関連した資料(研究論文)を適宜配布する。 ・ 既往研究による予習と復習から理解する。 ・ 研究手法への展開を意図する。 ・ 予習と復習に関しては事前に説明した対象資料や図書を紹介するので熟読して、講義に臨むこと
2	スポーツと草地の変遷	スポーツにおける草地の発達と変遷	
3	草地の分布	世界的分布と日本の分布	
4	イネ科草本類の特徴	イネ科草本類の分布と特徴	
5	イネ科草本類の種類	イネ科草本類の種類と生態的特徴(生育性)	
6	草本類の成長と季節	季節ごとに変動する生育量の特徴	
7	成長解析とその算出①	成長解析法に基づく成長量	
8	成長解析とその算出②	成長解析法による算出方法	
9	環境ストレス適応①	物理的刺激と成長量ならびに体内生理反応	
10	環境ストレス適応②	浸透圧ストレスと成長量ならびに体内生理反応	
11	環境ストレス適応③	環境要因ストレス(光)と成長量と反応	
12	環境ストレス適応③	環境要因ストレス(水)と成長量と反応	
13	環境ストレス適応④	環境要因ストレス(温度)と成長量と反応	
14	環境修復の草本類①	劣悪環境下における草本類の生育と機能	
15	環境修復の草本類②	草本類の役割と機能を期待した環境緑化修復技術	

◆教科書及び資料 (授業前に読んでおくべき本・資料)

書名/著者/発行所(発行年)

最新環境緑化学/森本・小林編著/朝倉書店(2007) 他、適宜紹介する

◆授業をより良く理解するために便利な参考書・資料等

書名/著者/発行所(発行年)

最新芝生・芝草調査方法/日本芝草学会/ソフトサンエイ社(2001) 他、適宜紹介する

◆評価の方法 (レポート・小テスト・試験・課題等のウェイト)

大学基準による評価・レポート等による評価(ネライ・概念・まとめの簡潔さ等によって評価/100%)

◆オフィスアワー

指導教員の造園科学科の担当科目を参照

◆その他受講上の注意事項